

## [様式2]

提案書	
技術分野	⑤地下水流入抑制の敷地管理（遮水壁、フェーシング等）
提案件名	溶接タンクの接続管部の漏水対策
提案者	清水建設株式会社
<p>1. 技術等の概要（特徴、仕様、性能、保有者など）</p> <p>現在、福島第一原子力発電所に設置されている現地溶接の溶接型タンクは、止水性能に優れており、タンクからの漏水はほとんど無いと考えられる。しかしながら、隣接する溶接タンクを接続する接続管部は、接続管やバルブがボルトで接合されており、溶接接合に比べると止水性に劣ると考えられ、この部分からの漏水が懸念されている。そこで、この接続管部からの方が一の漏水に備えた対策を講ずることを提案する。</p> <p>図に示すように接続管部を鋼製のボックスで覆うことにより、万が一、接続管部から漏水が生じた場合はボックス内に貯留する。一日数回パトロールを実施しており、接続管部からの漏水は軽微であるため、直ちに漏水対策を講ずれば、この間の漏水はボックスで貯留することは可能と考えられる。</p> <div data-bbox="405 934 1169 1420" data-label="Image"> <p>中が点検可能な蓋</p> <p>溶接タンク</p> <p>0.5m</p> <p>2m</p> <p>鋼製の箱で連結部を囲う</p> <p>管回りをシール材で止水</p> <p>1.3m</p> <p>連結管</p> <p>溶接タンク</p> <p>300mm</p> <p>万が一連結管から漏水しても鋼製箱の中に貯留される バルブの下の空間は、300L程度</p> </div> <p>図 溶接タンクの接続管部の漏水対策概念図</p> <p>溶接タンクは、ボルト組立式タンクに比べ、止水性能が優れているため、タンク本体からの漏水はないと考えられる。そのため、接続部の漏水対策を施すことで、溶接タンク設置ヤードへの降雨は、全て雨水として集水することが可能と考えられ、構内のフェーシング機能の向上に寄与すると考えられる。</p> <p>なお、溶接タンク設置ヤードの外周には排水溝やピット等を設けて、汚染水の流入しない独立した経路を構築し、この範囲の雨水のみを集水させることが重要である。</p>	
<p>2. 備考</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開発・実用化の状況（国内外の現場や他産業での実績例、実用化見込み時期を含む）</li> <li>・開発・実用化に向けた課題・留意点</li> <li>・その他（特許等を保有している場合の参照情報等）</li> </ul>	